

*活動のテーマ

・光

*テーマの設定理由

・毎日の生活の中で何気なく接している光。窓から入る日差し of 光の存在に子どもたちが気づき始めたことから光を取り入れ楽しめるように設定をした。

*活動スケジュール

・子どもたちの体調を考慮しながら室内遊びから取り入れ、その後戸外では天候の良い日に行く。

*活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・懐中電灯(保育園にあるものを使用)・色水の入ったペットボトル(大・小数本ずつ)・カラーフィルム・段ボール

*活動の内容

- ・11月 室内で光に触れてみよう
- ・12月 室内で光に触れてみよう②
- ・2月 戸外で光を感じよう

*活動中の子どもの姿、声、子ども同士や保育者との関わり

・最初の取組みは保育者が用意した懐中電灯の光であったが、保育者のこれ何？の声掛けに首を傾げたり手を伸ばして触ろうとする姿が見られた。子どもが手を伸ばし、触ってみると物体がなく触れないことに気が付いた様子であった。光が動くことに少しずつ理解すると追いかけたりする様子も見られた。反対にペットボトルは触ることができるため、月齢によっては倒して楽しむ子も見られたが、懐中電灯やスマートフォンのライトの上に色水の入ったペットボトルを置くと光って見えることを楽しみ「きらきら」「はっ！」と声を出したり手をキラキラさせて喜んでいる子もいた。

*振り返りによって得た先生の気づき

・すくわくプログラムとしては全3回取り組んできたが、後半になると子どもたちの月齢も上がってきていたことから、光に対しての意識の変化に気が付くことができた。最初は光(懐中電灯)に興味を示さなかった子も回数を重ねるごとに光を追いかけるようになった。懐中電灯やスマートフォンのライトの上に色水の入ったペットボトルを置くと懐中電灯の光とは違い手で触ることができるため、手に持って遊ぶ様子が見られた。

光に興味が出てきた為、カラーフィルムを透明の袋に入れて覗いて遊んだり、お散歩の際にサークル車にカラーフィルムを張り付けた段ボールを巻いて太陽の光が差し込んで色の光に気が付いて意識して触っている姿も見て取ることができた。今回すくわくで光を取り入れたが、月齢の差があっても楽しむことができると気が付くことができ、更に室内・戸外での遊びの幅や楽しみ方を考えることができた。

*活動の様子が分かる写真(2枚以上)

・室内で光と出会い遊ぶ様子



・屋外で光を感じて遊ぶ様子

